



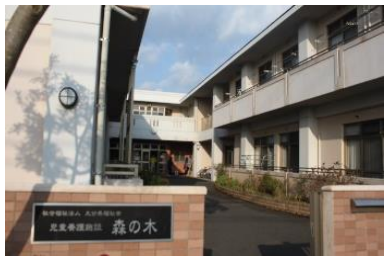
社会福祉法人 大分県福祉会 大分市頭徳町 1-13-17 発行者 有松一郎 電話 532-3472

# 森の木の新たなチャレンジ

## (小規模ケアによる一時保護の実施)

社会的養育ビジョン」が厚生労働大臣に報告され、法改正の理念を具現化する方策と行程が提示された。一方で、このビジョンはあまりにも性急な改革を求めており、社会的養護の現場に大きなショック

平成二 十八年、児童福祉法の抜本的改正で、基本理念の規定が見直され、児童を権利主体とする大転換が行われた。又、これを受けて、本年度八月には、「新しい



森の木施設

森の木は、これまで本園の全ユニット小規模ケア化や二つの地域小規模児童養護施設、児童家庭支援センターの立ち上げ等を積極的に推進し家庭

### 年頭所感

新年明けましておめでとうございます。皆様には、平成三十年の新春を健やかに迎



理事長 有松 一郎

そしてなにより各施設職員の弛まぬ努力の結果、平成二十九年においても順調に運営を行うことが出来たのではな

### 変化をチャンスに

#### さらなる福祉サービスの充実を

##### 社会福祉法人大分県福祉会

##### 理事長 有松 一郎

きましては、解決の糸口が見つかるとい

最後に本年は千支で申しますと、戊戌(つちのえいぬ)年です。戊は茂に通じ、最高の活動

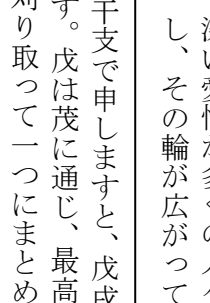
九月定期理事会 九月十五日(金) 国の処遇改善に伴い、法人独自の処遇改善案も盛り込んだ給与規則、二歳までの育児休業の延長及び育児目的の休暇の半日単位での取得を可能にした介護休業に関する規則改正、明野しいのみ保育園空調設備更新工事入札参加者について審議承認。

この制度は、児童福祉法改正に伴う一時保護児童の受け入れ体制の充実を図るため平成二十八年度に国が創設した制度であり、児童相談所の一時保護機能多様化の一環である。全国的に見ても実施施設はまだ少ない。このため、既存ユニットの改造を行い、乳児も受け入れ可能な設備や人員配置を整えることにしている。また、本年度中に、中央児童相談所の一時保護所での職員派遣研修を実施し、一時保護所としての大事な機能等を学ぶとともに、原則として通学支援も行いたいと考えている。

祝 理事長表彰 法人創立六十五周年記念大会において左記の方々

十二月理事会 十二月二十日(水) 処遇改善手当支給時期に関する給与規則改正、地域小規模施設さくら移転、森の木一階南ユニット改修工事入札、第一次・第二次補正予算、本部体制、人事案件について審議承認。

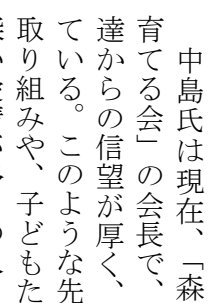
### 祝 叙勲 緑綬褒章章



中島 益雄氏 (株) ゼウス会長

平成二十九年十一月三日、中島益雄氏は、緑綬褒章を受章した。これは、昭和四十五年

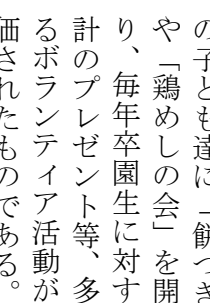
九月一日から十一日間「賀来の市」が開催され、六年に一度の大名行列があった。当施設の小学生は本番に向けて、地域の方々からご指導を頂きながら一生懸命練習に励んでいた。



内野 優氏 ゆうび(株) 会長

平成二十九年十一月二十一日、内野優氏は、大分合同新聞福祉賞を受賞した。内野氏は、昭和六十三年から二十九年間の長きにわた

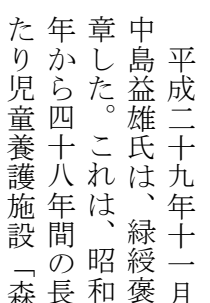
九月一日から十一日間「賀来の市」が開催され、六年に一度の大名行列があった。当施設の小学生は本番に向けて、地域の方々からご指導を頂きながら一生懸命練習に励んでいた。



渡辺和郎様 (合気道の指導・五年)

祝 理事長表彰 法人創立六十五周年記念大会において左記の方々

九月定期理事会 九月十五日(金) 国の処遇改善に伴い、法人独自の処遇改善案も盛り込んだ給与規則、二歳までの育児休業の延長及び育児目的の休暇の半日単位での取得を可能にした介護休業に関する規則改正、明野しいのみ保育園空調設備更新工事入札参加者について審議承認。



神本千尋様、福 秀之様 (カットボランティア・五年)

祝 理事長表彰 法人創立六十五周年記念大会において左記の方々

十二月理事会 十二月二十日(水) 処遇改善手当支給時期に関する給与規則改正、地域小規模施設さくら移転、森の木一階南ユニット改修工事入札、第一次・第二次補正予算、本部体制、人事案件について審議承認。



森の木の子ども達

祝 理事長表彰 法人創立六十五周年記念大会において左記の方々

十二月理事会 十二月二十日(水) 処遇改善手当支給時期に関する給与規則改正、地域小規模施設さくら移転、森の木一階南ユニット改修工事入札、第一次・第二次補正予算、本部体制、人事案件について審議承認。





十月二十七日(金)、四・五歳児クラスの子ども達は、アフリカンサファリに行った。まずは小動物との触れ合いでリスザルに餌をあげたり、モルモットを抱っこしたりして楽しんだ。その後はジャングルバスへの乗車。動物にどのエサをあげるか予習をして臨んだ子ども達だが、実際に動物を目の前にするとその迫力にドキドキ。それでも「ライオンにはお肉」「次は何かな」「キリンは見るだけだよ」等会話をしながら、次々と現れる動物へのエサやり体験を十



二分に楽しんだ。「他のクラスはサファリに行っていない」と五歳児の子ども

### 駄菓子屋招待

母子支援施設 別府厚生館

十二月二十四日(日)、別府市ボランティア連絡会より幼児から高校生までの児童を別府市緑丘にある『だがしやさん』へ買物招待して頂いた。出発前から子ども達は「どんなお菓子があかな?」「何を買おうかな?」と期待に胸をふくらませていた。お店に到着し、店内へ足を運んだ一同は陳列された沢山のお菓子をみて大喜びだった。さあ買物だ!と意気込む姿と、幼児は母親と一緒に顔を見合わせ



がみだがおもしろい観察力や創造力に驚いた。

言葉から話し合いを重ね、他のクラスを招待しようと「ひまわりサファリ」の取組みが始まった。保護者の協力も得て材料集めをし、いよいよ動物作りに取り組んだ。「キリンには角があるよ」とプリンカップを使ったり、完成したシマウマを見て「背中にはたてがみがあつた」と作り足るなどその観察力や創造力に驚いた。招待状を作成し、開園日も決まると「ドキドキしてきた」「うまくいくかな」と不安そう。飼育員、バスの運転手と係も決め、いよいよサファリごっこの日。バスの運転手は本職ながらにゆっくりバスを走らせて動物の特徴を紹介した。飼育員はそれぞれの年齢の子どもに合わせた声かけで、エサのあげ方を説明し、特に〇・二歳の子ども達には、

ながら、小学生は学校で習った足し算を駆使し買物を進めていく姿は微笑ましかった。まとめ買いする子や、色々な種類のお菓子を満遍なく買う子、買物の仕方は様々ながら、目を輝かせ嬉しさに溢れた表情は皆同じであった。心温まるクリスマスプレゼントを頂き、ボランティア連絡会・だがしやさん店主様には、利用者・職員一同感謝の気持ちでいっぱいである。このような縁を大切に、地域との繋がりを深めていきたい。



なににしようかなあ

### 郷土料理作り

十二月十日(日)

利用児者より大分の郷土料理を作ってみたいとの希望があり、利用児者と地域の方との交流も兼ねて、南部地区公民館を使用し、郷土料理作りを行った。事前アンケートの回答で多かったものの中から鳥天、だんご汁、鶏飯の三つをメニューに決め、南部地区民生委員の方々にご協力を頂き、総勢十八名での調理となった。途中でだんご汁の作り方を教わり、出来あがり料理を全員で囲み、楽しいひとときを過ごすことができた。初めての取り組みだったが、利用児者からは「地域の方と距離が近くなった気がした」、「道で会った時に料理の話をすすようになった」との声を聞く事ができ、交流を深める良い機会となった。



上手にできるかな

手を繋ぎ同じ目線に立ち、優しく声をかける姿が印象的だった。「皆喜んでくれたね」と話す姿は満足感と達成感に溢れていた。サファリ遠足という共有体験から始まった活動は、想像力や協同性を育むと共に子どもの主体的な遊びの中で、保育士に認められ、多くの年下の子ども達に喜んでもらえたことを通して自己肯定感を高めることに繋がったと考える。今後も子どもの成長の基礎となる活動を大切にしていきたい。

### ときめき作品展 うその園

皆で作った作品



障がい児者の芸術活動を発表する場として、毎年開催される「ときめき作品展」が、

いちごアトリウムプラザで、九月三十日から十月三日まで行われた。うその園は、二点出展し、一点目は海で泳ぐ魚の作品で、視覚障がいの方でも製作できるように、魚の形に切った画用紙に色紙をちぎって貼り付け、一人ひとりの個性がでた魚ができた。海中は小石を敷き詰めた画用紙にビニールテープを貼り付けている。個性豊かな魚たちが海の中で楽しそうに泳いでいる作品になった。特に魚たちの配置とビニールテープの貼り付けにこだわって作った。

二点目は個人の塗り絵の作品で、色の使い方を考えた作品だ。どんぐりを抱えているりすの姿はともかわいらしく、きれいな色を使った作品に仕上がった。

### サンタさんからきたてがみ

滝尾保育園

十二月二十二日(金)、クリスマス会を行った。子ども達が心待ちにしている行事のひとつである。そんな特別な行事をもっと楽しんでもらう

### 福祉サービス運営委員会

平成二十九年年度 第一回委員会(第三者委員、利用者家族委員、事業者代表委員など十二名で構成)が平成二十九年十月十八日(水)福祉会事務局会議室で開催され、事務局及び各施設の現状と苦情や要望とを中心に協議が行われた。法人の苦情解決システムに則った苦情はなかったが、利用者間のトラブルやヒヤリハット等について報告された。

平成二十九年九月六日に大久保修身氏が逝去されました。氏は平成九年四月一日から、平成二十八年五月三〇日退任するまで十期二十年の永きに亘り大分県福祉会の監事として本会の発展に寄与され、とりわけ児童養護施設森の木の子園に對して慈愛に満ちた様々な援助を行ってこられました。そのご功績に感謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

### クリスマス交流会 清明あけぼの学園



音色にうっとり

ダブル演奏を行った。即興でコントラバスとピアノが加わり、豪華な演奏になると児童は「楽しい」と目を輝かせていた。また、チャリティーコンサート収益によるクリスマスケーキとお菓子を頂いた。

交流は今年で三回目となり、互いの顔を覚える等、親交が深まっている。児童は感謝しながら「また来て下さい」と見送っていた。

ために、今年は絵本の世界を取り入れることにした。絵本『サンタさんからきたてがみ』をテーマにして、子ども達はサンタクロースに手紙を書き、職員は、絵本の世界を再現した映像を作成しスクリーンに映し出してイベントを楽しみながら、クリスマス会当日を迎えた。会の前には、絵本の



クリスマスツリーを見つけたよ

ジ映像を観たり歌をうたったりしてクリスマス会を楽しんだ。二十五日の朝にはサンタクロースからプレゼントも届き、とても喜んでいた子ども達であった。

### 訃報

平成二十九年九月六日に大久保修身氏が逝去されました。氏は平成九年四月一日から、平成二十八年五月三〇日退任するまで十期二十年の永きに亘り大分県福祉会の監事として本会の発展に寄与され、とりわけ児童養護施設森の木の子園に對して慈愛に満ちた様々な援助を行ってこられました。そのご功績に感謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

### 編集委員スタッフ

- 【編集責任者】阿南奈緒美(明野しいのみ保育園)
- 【編集委員】甲斐遼太郎(別府厚生館)、新田美優(うその園)、藤岡大樹(森の木)、出田千晴(森の木)、原口直美(滝尾保育園)、阿部沙織(明野しいのみ保育園)
- 【顧問】後藤哲臣(事務局長)



一年間ありがとうございました